

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	総合的な学習の時間
3【そなえる】	⑰【自然災害の歴史】 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく。	

【題材】

「よみがえる山田の水産業」 第5学年
「伝えよう！『海よ光れ』」 第6学年



【実際の概要・詳細】

【第5学年】「よみがえる山田の水産業」

① ねらい

水産業従事者や水産業協同組合、魚市場等の取材活動を通して、山田町の水産業の現状を調べ、将来に続く水産業のあり方について考える。

② 活動の流れ

- ・震災前と現在の様子を比べたり、水産漁協組合へインタビューしたりすることを通して、自分なりの課題を見つける。



- ・水産漁協組合、孵化場等への取材や見学、漁師の方の話などを手掛かりに課題を解決する。



- ・これからの山田の水産業はどうあってほしいか、そのために何が出来るのかについて話し合う。



- ・学んだ事を全校表現劇「海よ光れ」で発信する。



TFC山田での取材



孵化場の見学



全校表現劇で使用するスルメ作り



昔ながらのスルメ干し

【第6学年】「伝えよう！『海よ光れ』」

① ねらい

大沢の歴史や文化を描いた全校表現劇「海よ光れ」の背景にある海の厳しさや恵み、歴史や文化、人々の知恵や工夫、苦労や思いについて理解し、表現することによって郷土を愛する心を育てる。

② 活動の流れ

- ・劇の時代背景や津波等の歴史、水産業や暮らしの様子等を調べる取組を通して、「海よ光れ」が伝えている事について考える。



- ・劇中に出てくる昔ながらの「スルメわり」「スルメ干し」等を実際に体験することを通し、自分たちの「海よ光れ」を創り上げるにはどうしたらよいか考える。



- ・全校表現劇「海よ光れ」の発表を通し、自分たちの思いを地域の方々やこれまで支えて下さった方々に伝える。

【授業の実際】

- 1 単元名「伝えよう！私たちの『海よ光れ』」
- 2 対象 第6学年
- 3 単元設定の理由

全校表現劇「海よ光れ」は、この地で漁業を生業として生きてきた大沢の人々の昔からの暮らしぶりや助け合い、また、恵をもたらしてくれる海の大切さなどを、大沢村と呼ばれていた明治の頃から現代まで時をさかのぼって表現している。厳しい仕事や暮らしや津波を乗り越え、明るくたくましく生きてきた大沢の人々を理解することは、劇づくりに生かせるだけでなく、震災を経験した子どもたちにとって、ふるさとの復興のために自分たちはどうあれば良いかを考えることにつながるができると考える。この劇を演じるにあたって、劇中で表現されている内容について今の時代と比較しながらより深く理解させるとともに、ふるさとに対する思いを深めさせたいと思い、本単元を設定した。

4 本時の指導

(1) 目標

自分の課題と追求の結果について発表し合い、分かったことやこれからの劇づくりや自分自身に生かしていくことについて考えることができる。

(2) 展開

学習活動

- 1 前時までの学習を振り返る。
- 2 本時のねらいを知る。
- 3 個人課題について発表し合う。
 - ・同じ役のグループで発表し合い、分かったことや気付きなどの意見を出し合う。
- 4 各グループの話し合いでわかったことを発表する。
- 5 本時の活動の調べたことや友達の発表から、大沢の人々の生き方や劇への生かし方について話し合う。
- 6 次時の活動について知る。

個人課題についての発表を聞き合い、昔の大沢や人々の生き方について話し合おう



【児童の感想】

11月2日に「海よ光れ」がありました。私のめあては思いを込めてセリフを言うことでした。自分が一番思いを込めた場面は、五の場面です。つらいことがあってもみんなで助け合えば乗り越えられるという事を伝える場面だからです。「わたし達も何があってもがんばろう」という思いをセリフに込めて強く言いました。お客さんにも思いが伝わったと思います。自分だけではなく、他の人の思いもお客さんに十分に伝わったと思います。みんな、役になり切り本気だったからです。6年生にとってもとても大切な一日になりました。

【保護者の感想】

「海よ光れ」を実際に見たのは、2回目でした。1回目の時は、最初から見て、感動したり、辛い気持ちが入り混じったりで、ずっと涙が止まらず…今回は、見に行くか正直ずっと躊躇していました。それでも、見に行ってみたら一言ひとこと噛みしめてセリフを言っている児童の言葉を聞き、すぐに泣けてきました。感動の一言です。



【まとめ】

大沢の歴史や文化を描いた全校表現劇「海よ光れ」を演じるに当たり、児童は、地域に根差した生活の在り様、地域の様々な営みや長年受け継がれてきた文化、生活の糧としての漁業の様子等々、多くのことを直接的な体験を通じて体感的に学んできた。そして、明治津波から復興を遂げてきた先人のたくましさ、災害があっても、なお、この土地に生きる人々の思いを受け止め、自分なりに解釈し、租借し、工夫しながら、自らの「心」と「体」を使って、1時間30分の劇の中で精一杯表現した。

真正面から辛い震災体験に向き合わなければならない全校表現劇「海よ光れ」だが、それが逆に児童を強くし、地域づくり・夢づくりにつながっている。